

第9回琴浦町地方創生推進会議（結果）

日時：平成28年5月21日（土）15:00～17:00

場所：本庁舎 防災会議室

1. 参加者	委員17人、事務局4人、副町長、笠見コンシェルジュ
2. 欠席者	杉山委員、長谷川委員、米原委員、桑本委員、光本委員、井東委員、吉田委員、川本委員 黒田委員代理（三浦さん）
3. 内容	<p>1. 平成27年度地方創生先行型交付金事業の評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前段に琴浦町イメージアップ事業についての評価点について説明。 →完成が年度末であったことから評価が1としているが、現時点での動画再生回数は約3700回である。 ・先回配布した資料に基づき、ポイントを説明し委員さんからの意見を募った。 <p>2. 平成27年度地方創生加速化交付金事業について（別紙）</p> <p>→資料に基づき、事業計画、概要の説明。 事業が始まったばかりで、事業の進捗、成果等の報告は現時点ではできないが、次回以降皆さんの評価、意見等お伺いしたい。</p> <p>3. 平成28年度地方創生推進交付金について（別紙）</p> <p>→概要説明後、事業計画を基に4班に分かれてグループでの話し合いを行った。</p> <p>◎グループ分けでの話し合いについて 推進交付金事業計画作成にあたり皆さんの知恵を借りたい。儲かるのか、自立できるのか、商売が成り立つのかという観点で自由な意見を伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員交代等により、新しい委員を委嘱 ・第2次琴浦町総合計画審議会委員の選出について、佐伯会長を推薦することについて報告。
4. 主な意見	<p>推進委員からの主な意見は、次のとおり。</p> <p>1. 平成27年度地方創生先行型交付金事業の評価について</p> <p>①自主防災組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要なことはわかるが、具体的に何をするのが問題となっている。多くが二の足を踏んでいる状況。 ・自主防災組織の立ち上げについて、今後の取組みをどう考えているのか説明してほしい。 →本日、担当課が出席していないため、今後の機会にお願いします。 →担当課に報告しておく。 <p>②今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般財源を財源として引き続き取り組んでいく事業もある。 <p>③芝産地の活性化を目的とした生産機械開発事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許調査の結果は怎么样了か。 →現在の特許を侵害していないかの調査で、開発した機械で特許を取得

平成28年5月21日（土）
第9回琴浦町地方創生推進会議

平成28年度地方創生推進交付金事業（案）に対する意見

【農業分野】

○相談窓口、支援制度について

- ・農業についての相談窓口が町にないため、困ったことがある。
- ・県外から移住してこられる方に対しては厚い支援があるが、町内農家に対しては支援が薄いので、こちらに対しても厚い支援が必要ではないか。
- ・地元の若手農業者に対しての支援がほしい。
- ・他県から来られる新規就農者について、農業に対しての支援はあるが、生活全般に対しての支援がほとんどない。→帰ってしまう。

○農業後継者確保・新規就農対策について

- ・法人の農家の社員という形で農業を始めれば、就農しやすいのではないか。
- ・農業に対してのイメージが悪いので、おもしろさ、楽しさを十分に伝えていかなくてはいけない。
- ・収入の多い品目を耕作されている農家については、後継者が育っている。
- ・単に農業をしませんかというような呼びかけだけでは、一般の人にはわかりにくい。
- ・新規就農希望者に対し、農で食べていく人と農のある生活をしたい人との区別をしながら、作目を提示し具体的な提案を行っていく必要があるのではないか。
- ・農業をやってみたいけど、なかなか行動に移せない方は、法人化されたところに勤める農業というのも若い方が希望されている。→雇用が生まれる。将来の農家につながる
- ・よそから上場企業の関連法人を引っ張ってくれば、新しい取り組みもできるし、就業者の安心にもつながる。
- ・職員を10人ぐらい採用し、農業に従事させたらいいのでは。（国土保全のため）
- ・Iターンですでに就農されている人が、何が決め手となってうまくいったのか、こういった点が失敗した点といったことの分析が必要ではないか。
- ・新規就農で必要なのは住むところ、作業するところ、機械があるが、来られる方の安易な考えで失敗するケースもある。明確な情報提供が必要ではないか。
- ・最初から借金は危険である。
- ・大規模化をしていかないと難しい。

○販路拡大、販売促進について

- ・6次産業化とか販売力の強化といったことは、昭和の時代から言ってきたこと。これから時代が変わって、需要の形態が変わっていく、流通の形態が変わっていく中で、どう販売戦略を位置づけるかという具体策が必要ではないか。
- ・売るということは大変なことで、町が一丸となって総合販売していくような基軸があればいいのではないか。
- ・全国の小口の消費者への対応ができていないのではないか。琴浦町で生産されるもの全てを取り扱える機構を考えていく必要があるのではないか。
そこでブランド色のあるもの、知恵と工夫で付加価値を高めたものを販売していくというような対策ができれば、自ずと町の情報も出ていく→町のPRにつながる。
- ・販売システムの構築について、規格外の野菜を活用した新たな販売組織ができたり販売ルートの確立ができれば、農家も安心して作ることができ、励みにもなる。
- ・琴浦町の場合、イベント・観光では「じゃらん」で知名度の調査をされているが、やはり、大山乳業とか二十世紀梨とか知名度の高いものもある。6次産業化とか漠然としたものではなく、すでにブランド力のあるものをさらに販売力を高めていく戦略、それと少量で多品目で付加価値を高めるものがどういう形で組み合わせて販売すればいいかという戦略を具体的に構築するべきではないか。
- ・グルメのまちとして、岡山県日生^{ひなせ}の牡蠣小屋のようなものがあれば。ジャガイモと大乳のバターのコラボレーションで「じゃがバター」とか、採れたてのものをその場で食べてもらえるような所が、山と海、それぞれ一箇所でもあれば、おいしいものを消費者に提供でき、おいしければ口コミで広がり来客も増えるのではないか。
- ・体験と組み合わせて食を提供できるようなところがあれば。ニーズはあるのではないか。

○その他、推進交付金（案）についての意見

- ・ぼつぼつといろいろな対策がなrandeしているような印象だ。
- ・骨になる対策があつて、その効果を高める補完的な対策の戦利戦略をもっと明確にしたほうが良いのではないか。
- ・生薬については、そういうことができるのか非常に興味深い。
- ・従来の取組みのほか、新しい取組みをしなければ農業の諸課題は容易に解決しないのではないか。
- ・分析という部分で、センサス等で実態の把握はしているが、今後の見通しの推計についてはきちんと把握できていない。アンケートを実施し、例えば跡継ぎが予定されているなど実態を踏まえて、対策を考えたほうがいいのではないか。実態調査が必要ではないか。

【健康分野】

○アクティブシニア活動について

- ・シルバー人材センターもあるが、高齢者をコーディネートできる人がいるといい。
- ・高齢者（特に男性）は仲間づくりが苦手なので、若いときに培ったものや得意技を生かせるようなことを聞き出しながら発展させていくのがいいのではないか。
- ・高齢者クラブの会員数が減少しているのは、それぞれが個の時間を大切にしたり、やりたいことをやる方が増えたことと、世話をする方がいなくなったのではないか。
- ・時間のある高齢者が生きがいのため、健康のため農業をやってみればいいのではないか。一つのブランドとして売っていくのはどうか（高齢者の農業塾、おばあちゃんのトマト、など）。

○健康遊具による運動習慣定着について

- ・子どもがなぜ外で遊ばないのか。→安全安心に自由に遊べる場所がない。遊べる場が整備されたとしても、家庭での教育が大切ではないか。
- ・なぜ外で遊ばないのか子どもと親に対し、アンケートをとり実態の把握と分析が必要ではないか。
- ・静岡でもこどもが創意工夫をもって遊ぶ遊具があったが、遊んでいる子どもはいなかった。
- ・子どもが少なくなり、遊ぶ友達自体が近所にいない。
- ・活動量が低下している。
- ・アンケート結果で、連れて行くところがなく、晴れの日でも家の中にいることが多かった。
- ・屋外の遊具だけでなく屋内用の遊具も検討してほしい。（空き校舎等の利活用）
- ・遊具の種類について、フィールドアスレチック形式のタイプがいいのでは。
- ・健康遊具のみの整備では、人は来ないのではないか。例えばウォーキングコースに組み込んだりするのでもいいのではないか。
- ・みんなが一緒に楽しめるような、いろんな要素が入っていれば利用されると思う。（子どもがバスケットができる場所、カフェ、食事ができる場所、歴史関連等）
- ・遊具設置場所については、赤碓道の駅がいいのではないか。

○その他、推進交付金（案）についての意見

- ・子どもと高齢者を分けて考えるのではなく、一緒に取り組みを行っていく。高齢者は知識や伝統、歴史的な財産を子どもたちに伝え、子どもは高齢者からいろいろな生活の知恵や安心感といったものを受け取る。
- ・学校や保育園の一角に高齢者が常に集まれる場所を設けて、週に1回ぐらい一緒に給食を食べるなどの交流ができれば、高齢者も外出機会や生きがいができ、健康にもなれる。

するものではない。試作機段階でまだまだ課題が多いものである。加速化交付金事業で実用可能なものを作っていこうとしている。

- ・今後特許取得予定はあるのか。
→今回は、諸課題があり特許取得まではいたっていない。今年度を最終年度と考えているが、機械メーカーとタイアップし商品化一歩手前までもっていった時に特許が必要ならば、メーカー側が特許を取得していくものだと考えている。オープンにして商品開発を促すという考えもある。
- ・オープンにした場合、どこかに特許を取得されてしまい逆に生産ができなくなることも考えているのか。
→専門家のいる産業振興機構に相談し、今の考えにいたっている。

2. 平成 27 年度地方創生加速化交付金事業について

①総合戦略との関連について

- ・これらの事業は総合戦略の内容に含まれているのか。
→加速化交付金事業、推進交付金事業は総合戦略に含まれたもので事業を組み立てている。

②事業の補助率について

- ・加速化交付金事業と推進交付金事業で補助率が違うが、同様の事業を展開していくのに、どこがどう違うのか。
→KPI を達成する必要があるので、補助率が下がっても、事業を進めていかなければいけないと考えている。

③加速化交付金事業と推進交付金事業の関連について

- ・この 2 事業の関連について教えてほしい。
→加速化交付金事業は平成 29 年度以降について、KPI 達成のための事業計画を組んでいる。加速化交付金事業をベースとして、平成 29 年度以降取り組まなければいけない事業も含めながら、推進交付金の事業計画を組み立てている。

3. 平成 28 年度地方創生推進交付金事業について

- ・別紙①のとおり

予算（6月補正等）に反映させるものなどの意見はなく、事業を取り組む上で留意・検討してほしいことなどの意見が主だった。